

環境報告書2014 環境マネジメントシステムの概要 資料

平成25年度 部局独自の取り組み

環境目標の達成度評価基準



→達成率100%以上



→達成率80%以上



→達成率80%未満

方針	目的	目標	具体的な取り組み	達成度 ()内は 実績値	
教育	環境マインドの育成	「実践・現場重視型の環境教育」の充実	評価：人文学部、教育学部、生物資源学部、地域イノベーション学研究所は、『実践・現場重視型の環境教育』の充実に対する目標への取り組み内容を年度当初に検討し、実施回数を設定しています。実績は、目標に対して充足し、年間通じてすべて達成しました。		
			人文学部	学部の環境教育科目の実施教数拡大に向け検討をする(検討回数)	(1回)
			教育学部	環境教育関連の実践型の授業を実施する。	(2回)
			生物資源学部	次年度のシラバス作成時に実践・現場重視型の環境教育に関連した内容を積極的に取り入れるよう呼びかける。	(1回)
		地域イノベーション学研究所	エアコンのリモコン付近に冷暖房の適切な温度を表示し、構成員全員が意識するように努める。	(2回)	
		学際的環境教育システムの構築と運用	評価：人文学部、教育学部、地域イノベーション学研究所は、『学際的環境教育システムの構築と運用』に対する目標への取り組み内容を年度当初に検討し、実施回数を設定しています。実績は、目標に対して充足し、年間通じてすべて達成しました。		
			人文学部	学部の環境教育科目の履修者数の拡大に向けた方策を検討をする(検討回数)	(1回)
			教育学部	「持続発展教育プログラム」授業分を実施する。	(2回)
		地域イノベーション学研究所	博士前期課程と博士後期課程の研究内容に関するプロジェクトマネジメント調査票の検討事項の一つに環境問題やエネルギーコストを意識する項目を追加する。	(1回)	
		学内外の環境教育プロジェクトへの支援と連携	評価：教育学部、工学部、地域イノベーション学研究所は、『学内外の環境教育プロジェクトへの支援と連携』に対する目標への取り組み内容を年度当初に検討し、実施回数を設定しています。実績は、目標に対して充足し、年間通じてすべて達成しました。		
教育学部	環境管理推進センター員から環境教育プロジェクトの提案及び報告を受け学部内で共有する(メール等活用し報告した回数)		(11回)		
工学部	環境管理推進センター員の委員会審議内容を、工学研究科教授会で報告、情報を共有し、支援と連携を促進する。		(12回)		
地域イノベーション学研究所	スマートキャンパス計画に積極的に参加する。	(6回)			
研究	大学キャンパスや施設を活用した、地球温暖化防止、自然共生等の革新技術の実現化	スマートキャンパス構想に関連した、学生及び教職員が行う環境活動のリサーチ	評価：人文学部、教育学部は、『スマートキャンパス構想に関連した、学生及び教職員が行う環境活動のリサーチ』に対する目標への取り組み内容を年度当初に検討し、実施回数を設定しています。実績は、目標に対して充足し、年間通じてすべて達成しました。		
			人文学部	構成員にスマートキャンパス実証事業への協力を要請する。	(1回)
		教育学部	学部・学科教員による環境研究成果を学部内で共有する。(メール等活用し報告した回数)	(1回)	
		地域イノベーション学研究所	評価：地域イノベーション学研究所は、『大学キャンパス内のエネルギー利用を最適化する方法を明らかにする』に対する目標への取り組み内容を年度当初に検討し、実施回数を設定しています。実績は、目標に対して充足し、年間通じてすべて達成しました。		
大学キャンパス内のエネルギー利用を最適化する方法を明らかにする	大学キャンパス内の様々なコミュニティからのエネルギー需要を調整するとともに再生可能エネルギー等の活用を総合することによって、CO2削減量を最大化する方法を研究する。	(6回)			
社会貢献	三重大学独自の環境主軸のUSR規範の検討と確立	USRの考えをもとに環境イノベーション(社会的意義のある新たな価値を創造)を検討し環境報告書に作成して活用する。	評価：教育学部、地域イノベーション学研究所は、『USRの考えをもとに環境イノベーション(社会的意義のある新たな価値を創造)を検討し環境報告書に作成して活用する』に対する目標への取り組み内容を年度当初に検討し、実施内容を設定しています。実績は、目標に対して充足し、年間通じてすべて達成しました。		
			教育学部	環境報告書に掲載する環境教育の24年度成果をまとめ、部局担当の環境管理推進センター員に報告する。	(1回)
	地域イノベーション学研究所	大学の社会的責任(USR)としての環境イノベーションに関して、教職員と学生が話し合う場を提供する。	(8回)		
	キャンパス及びその周辺地域社会学生とのコミュニケーション	地域社会と連携し、学生のコミュニケーションを養う交流の機会を作る	評価：人文学部は、『地域社会と連携し、学生のコミュニケーションを養う交流の機会を作る』に対する目標への取り組み内容を年度当初に検討し、実施内容を設定しています。実績は、目標に対して充足し、年間通じてすべて達成しました。		
人文学部	地域社会と連携し、学生のコミュニケーション力を養う交流の機会をつくる。	(2回)			
業務運営	2020年までにCO2排出量を1990年比で30%削減	エネルギー使用設備の合理化の検討	評価：人文学部、教育学部は、『エネルギー使用設備の合理化の検討』に対する目標への取り組み内容を年度当初に検討し、実施回数を設定しています。実績は、目標に対して充足し、年間通じてすべて達成しました。		
			人文学部	職員用トイレの照明の切り忘れ防止のため、人感センサーへの切り替えを行う。	(1回)
教育学部	耐震改修に伴う設備の改善。	(2回)			

※具体的取り組みに対する評価は、国際環境教育研究センターが平成25年度EMS年間実施計画書の実績からまとめた内容です。